

人口減問題 解決策は

東北大院生提言を公表



人口減少に対応したまちづくり法制の研究を発表する学生

東北大公共政策大学院の学生約30人によるワークショップ報告会が20、21の両日、仙台市青葉区の東北大片平キャンパスであった。人口減少社会とまちづくり、東北から考えるエネルギー施策、子どもの貧困問題など四つのテーマで、調査研究の成果と提言を発表した。

人口減少社会に対応した各種法律制度を研究したグループ(7人)は、大崎市や女川町など10市町、群馬県の館林都市圏で聞き取り調査を実施。空き家の利活用を促進する登記制度の改善や、商業者が運行する買い物バスを軸にした公共交通の展開などを盛り込んだ。

スプロール化で市街地が無秩序に広がった郊外から中心部への居住誘導を図るため、税を優遇する必要性を説明した大学院1年の稲場亮輔さん(23)は「質疑応答を通じ、導入の課題や実効性など詰め切れていない部分の指摘を受けた。検討を重ね、最終報告書に生かしたい」と話した。